

平成29年度
宮崎国際大学一般入学選考前期日程
【教育学部】
試験問題
国語

受験番号
氏名

一次の各問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

問一 「調査委員会によって、今回の事故のジツタイが明らかになった。」の「ジツタイ」に当てる最も適当な漢字はどれか。

- ① 実態
- ② 実体
- ③ 実対
- ④ 失態

問二 「ユウセイの法則はメンデルの法則の一つである。」の「ユウセイ」に当てる最も適当な漢字はどれか。

- ① 優性
- ② 優勢
- ③ 優生
- ④ 有性

問三 「苟もそんなことをしたら大変だよ。」の「苟も」の読み方はどれか。

- ① くしくも
- ② からくも
- ③ さちくも
- ④ いやしくも

問四 「束縛／桎梏」と同じ関係になる最も適当な組み合わせはどれか。

- ① 口頭／文書
- ② 太陽／日輪
- ③ 旅行／出張
- ④ 学校／試験

問五 次の四字熟語の組み合わせのうちで、すべて漢字が正しいものはどれか。

- ① 臥新嘗胆／曖昧模糊／温故知新
- ② 奇想天外／輕拳猛動／順風滿帆
- ③ 離合集散／悠悠自適／本末転倒
- ④ 粉骨碎身／不撓不屈／乾牛充棟

問六 「（ ）用事があるので、私はこれで失礼します。」というとき、（ ）に最も適当な言葉はどれか。

- ① らちもない
- ② いたたまれない
- ③ よんどころない
- ④ こころもとない

問七 「彼の発表した作品について、シン辣な批評が相次いだ。」のカタカナを漢字に直し、
たとき、同じ漢字を含むものはどれか。

- ① シンボウ強い性格だ。
- ② シンカイ魚がいる。
- ③ シンコウ表を作る。
- ④ シンコウ策を考える。

問八 「ことさら勿体を（ ）。（ ）の（ ）に最も適当な言葉はどれか。

- ① 掛ける
- ② 決する
- ③ 触れる
- ④ 付ける

問九 「待ち遠しいこと」という意味の四字熟語はどれか。

- ① 起承転結
- ② 一日千秋
- ③ 疑心暗鬼
- ④ 三拝九拝

問一〇 「金科玉条」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① もつれた物事を明快に解決する方策。
- ② この上なく大切にして従うべききまり。
- ③ 善い行いを勧め、悪人を懲らしめる出来事。
- ④ 頭脳が、鋭く活発に働くこと。

問一一 「錦の御旗」の意味として最も適当な四字熟語はどれか。

- ① 活性化策
- ② 自主自立
- ③ 大義名分
- ④ 傍若無人

問一二 次の文のうち正しい表現のものはどれか。

- ① 先生からの注意事項を頭に留めて出発した。
- ② あの政治家は押し出しが強いことで知られている。
- ③ 彼の強引な態度にはとりつく暇もなかった。
- ④ 人々のあまりの暴言に怒り心頭に発した。

問一三 「先生から強く戒（ ）。」というとき、送り仮名の正しいものはどれか。

- ① ましめられる
- ② しめられる
- ③ められる
- ④ られる

問一四 「は・わ」の仮名遣いで間違っているものはどれか。

- ① こんにちは。
- ② 打つは守るはの活躍。
- ③ とてもおいしいわ。
- ④ それはそれは気の毒でした。

問一五 「う・お」の仮名遣いで正しいものはどれか。

- ① おおえんだん（応援団）がうるさい。
- ② こおゆう（交友）関係に問題がある。
- ③ それはおうきな（大きな）間違いだ。
- ④ とおめがね（遠眼鏡）で遠景を楽しむ。

問一六 生徒が先生に対して、「自転車通学を許可して（ ）ための条件はどんなことでしょうか。」と尋ねるとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① もらう
- ② もらえる
- ③ いただく
- ④ くれる

問一七 高校生が動物園の方に、「ライオンの飼育について、どんな工夫や苦心を（ ）のでしょうか。」と尋ねるとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① している
- ② なさっている
- ③ なざられている
- ④ いたしている

問一八 動物園の方に、「動物の写真を撮らせていただいても（ ）。」と尋ねるとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① よろしいでしょうか
- ② かまいませんか
- ③ いいですか
- ④ よかったでしょうか

問一九 「飛花落葉」とほぼ同じ意味を持つ四字熟語はどれか。

- ① 電光朝露
- ② 山紫水明
- ③ 明朗闊達
- ④ 付和雷同

問二〇 「杓子定規」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 素直で清らかである
- ② 苦勞を厭わない
- ③ 謹厳実直である
- ④ 融通が利かない

問二一 「色眼鏡で見る」の使い方として最も適当なものはどれか。

- ① 色眼鏡で人を見てはいけませんよ。
- ② 色眼鏡で彼を見ると結構優しいね。
- ③ 色眼鏡で答案を見て点数を甘くしたよ。
- ④ 色眼鏡で彼の性格を見てみよう。

問二二 「檄を飛ばす」の使い方として最も適当なものはどれか。

- ① 監督は選手たちを前に、「何としてでも優勝をもぎ取れ。」と檄を飛ばした。
- ② 自衛隊の隊員たちを前に、決起を促そうと檄を飛ばした作家がいた。
- ③ お芝居の山場に至ったとき、主演の男優が観客に檄を飛ばした。
- ④ 社長は、社員たちに反省を求めて厳しく檄を飛ばした。

問二三 「TPP」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 海外経済協力基金
- ② 北大西洋条約機構
- ③ 環太平洋戦略的経済連携協定
- ④ 環境汚染物質排出・移動登録制度

問二四 「協奏曲」にあてはまるものはどれか。

- ① セレナーデ
- ② ラプソディー
- ③ プレリユード
- ④ コンチェルト

問二五 「ポテンシヤル」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 権限付与
- ② 地球規模
- ③ 倫理崩壊
- ④ 潜在能力

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

読書家と学者

A書物をどういう風に読むべきものは、なかなか決定しがたい。知識を得ようとするもの、学問をしようと思うものが、読まなければならない本は無数に図書館にある。その上、広告文や新刊批評を読んで、これは読まなければならないと思う本は、毎日のように現われて来る。しかし、一人の人間が実際に読むことのできる量は知れたものである。本はたくさん読まなくても好い、というのが私の結論である。

自分の仕事の性質上、たくさん読まなければならない人がいる。文献学者とか、文学の歴史を調べる人とか、比較文学を研究する人などにとっては、読む本の多いことが第一の条件である。

しかしB本当に考える人、本当に文学や思想を作り出す人にとっては、あまり多く読むことは害をする。近代の日本で、もともと独創的な哲学者と言われる西田幾多郎の日記を見ると、哲学書よりも文学書や宗教書を読んでいる。そして西田幾多郎自身、自分は多読家でない、自

分は精読家でない、と言っている。真の思想家というものは、古来からの多くの思想を知っている人ではない。人間の生き方についての秩序を考え出した人のことである。

C 小説家としてはたいへん偉い志賀直哉は、読書人としてはたいへん怠けもので、知人や友人の本でもあまり読みたがらないらしい。志賀直哉の場合は、生活の中で正しいことと正しくないことを判断するというのが、その仕事の核心であるらしい。

D 知識の量の多いことだけが学者の資格ではない。たかさんのものを知っているという点ではラジオの二十の扉などに出る著名な物知りたちに、たいていの学者はかなわないものである。「学問とは知識の蓄積」だという考えは正しい考え方ではない。学者が自分の専門について多く知ることはもちろん必要だが、知っていることを秩序をつけて考える力を持っている人でなければ真の学者ではない。何故ある現象が起ったかという理論を知り、そのことの真の意味を知り、そしてどういう一般的な原則が考えられるか、というE推定もなし得る人でなければならぬ。

専門家とは

学者は、F いろいろな現象のなかを一貫している道理を考えるのがその仕事であるが、芸術家、そのなかでも書物ともっとも関係のある文士の仕事とは何だろう。

文士はどれくらいの本を読まねばならないものか、どれくらい知識を持たなければならないものだろうか。

この点はかなりアイマイである。歴史上の事実や習慣や文献については、歴史小説を書く大衆小説家の方が、現代小説を主として書く純文学者よりも、はるかに多くの知識を持ち、多くの書物を読んでいる。

歴史小説を書いている人の中には、ちよつとした国文学者や歴史学者がかなわないような知識を持っている人が何人もいる。亡くなった真山青果のように小説家でありながら、西鶴やキリシタン遺跡の研究で、同時代の学者たちよりもG数歩先んじた学問的業績を残した人があ

る。

しかし多く読み、多く知るということと、真の芸術を作ることとは、じかには関係がない。

私は現代の文士として、毎月雑誌に発表される小説、毎月本になる多くの小説を読んでいると人に思われるかも知れないが、とてもそんなことはできない。そんなに他人のものを読んでいては、自分の考えをまとめることが邪魔されて、思考力が弱くなり、時間がなくなり、気が散って、自分の仕事が粗末になる。

それでは同業の現代作家の作品を私が知らないか、と言えば、実はH素人の読者たちよりも、もっと本質的なことを知っている。私は同業者たちの書いている内容の話を知らなくても、二、三年の間にその人のものを一作か二作読めば、他のものも類推することができる。

何某君が、何という雑誌に、何という題で、どれくらいの長さの小説を書いている、ということが分かり、その一、二頁を読めば、それがどんな質の、どんな構想の作品であるか、だいたいのところは推定できる。普通の小説家や芸人は、その人の持ち味に即した仕事しかしないものである。

ただ私は、I同業の専門家の間でも、三、四人の人には注意をほらう。その人たちは専門家中の専門家であって、その時代の芸術の原型を作り出す人々である。その仕事の内容が、同時代者の中で先頭を切ってい、どう変わるか分らない人たちである。何百人と文士がいても、そういう人は一時代に三人か四人しかいないものである。ほかの大部分の文士の仕事は、甲が乙のものを書いても大差ないし、十年前のものを今年また書いても大差ないのである。

自殺

自分は何のために生きているのだろうか？自分のようなものは、生きているネウチも、生きている意味もないのではあるまいか？というようなことを、一生に一度ぐらいは、たいいていのが考えるものである。

そういうことを繰り返して、何度でも考えるうちに、自殺する人もある。

俳人の正岡子規の従弟で、藤野古白という青年がいた。俳句を作っても、子規に負けないほど才能があるといわれていたが、彼は失恋してから落ちつきを失い、自分は死ぬんだと口癖のようにいつていた。それで友人たちは警戒していた。

友人の一人がピストルを持っていた。古白がそのピストルを貸せといったので、Jその友人は、ちよつとわからないところへ隠してしまった。すると古白は、何とかしてそのピストルを手に入れたくなり、策略をめぐらした。

古白はしばしばそこへ遊びに行っているうちに、キセルを磨くのだが何か道具はないかといった。友人は何気なくピストルを磨く道具を出してやった。それで古白はピストルのアリカを見当つけ、友人が室から出たときにそのピストルを取り出して自殺した。

この場合、古白は、友人が隠しているピストルを苦心して捜しあてたのだから、それを使わずにいるのが損のような気がしたにちがいない。

本当に自殺しようと思えば、何もその友人の、そのピストルを使わなくても、何処ででも、何を使ってでも自殺することができるものだ。

東京湾のさきにある大島の噴火口は行楽地として、また自殺者の多い所として有名であるが、K寺田寅彦はなぜ大島まで行って自殺する必要があるか、といている。

死ぬというのはヨクヨクのことだ、とか、考えられることはみな考えた結果自殺するのだ、というけれども、自殺の多くは、人まねであり、流行を追うもので、生きている人間よりも、見てくれがしや、人にアテツケの要素の多いものである。

自殺すれば自分を哀んでくれるだろう、とか、私が死ねば私をイジメたことを後悔するだろう、と、L生きている人たちに与える効果を考えながら死ぬのが大部分である。

しかし、自殺者には、Mそういう人ばかりではない。生きていることの意味が本当に分らなくなつて死ぬ人もあれば、精神がサクランして生きつづけられない人もあり、また貧乏や病気などで生きるのを単純にやめる人もある。

そういうふうな事実上生きられない立ち場になった人でも、社会の組織が改善され、療養設備や生活扶助の制度がうまくできれば生きていられる場合が多い。社会制度が悪いために死ぬ人の数は、現在では相当に多いと思われる。大部分の自殺は社会の改革で救われるだろう。

しかし、生きて行く条件がそろっているのに、理論的に考えて死ぬ方がいいときめた人だけは、死なせた方がいい。別にそのNを悪くする必要もなく、その死を邪魔する必要もないだろう。

抵抗感

何かしたいと思っていると、いろいろな邪魔が現われる。恋愛には競争相手がつきものである。恋愛がうまく成就すると、親の反対などが起こりがちだ。何かを買いたいと思うときは金が足りない。山へ登ろうとすると危ない崖がある。

ある金持ちの青年が、女優と恋をした。親がその結婚に反対した。友人が同情して、その男が大学に通っていることにし、親にあてた手紙を幾通も預かって、一月に一回ずつその男の郷里へ送ってやり、親を安心させておいた。

そしてその男は、その女優と二人で自由にあちこち旅行して歩いていた。その二人きりの生活が一年つづく間に、おたがいにアラが見えてきて、二人の恋愛は行きづまり、別れてしまった。

もし、そうでなく、二人が恋愛しているところを親に見つかり、反対され騒ぎ立てられたら、きっと二人は親たちに抵抗することに生きがいを見出して、どうしても一緒になるといいはって、結婚してしまったかも知れない。悪くすると二人で心中したかも知れない。

そして正式に結婚してからは、たがいの欠点や鼻についても、別れることがなかなかむずかしくなり、二人とも、いやな思いをして日を送ったかも知れない。

抵抗や邪魔がなくなると、かえって張り合いがなくなるものである。人間が危険な山へ好んで登りたがるのは、身体を強くすることとか、自然を研究することとか、国防のための訓練とか、人に先んじて登るといふ名譽のためとか、いろいろな名目がつけられるけれども、P本当はそういうものではないと思う。

私はそれを、生きていることを強く味わおうとする欲求であると考え。すなわち困難な危険な山の頂きへ無事に登ったとき、死ぬ危険が大きければ大きいほど、生きていてある事をなすとげたという喜びが大きいものである。

もうすこしで死ぬところであった、と思うと、生きていることの味が強烈になるのである。平凡な道を歩き、危険のない生活をしていると、人間は、自分が何のために生きているのかわからなくなり、退屈して、生活が無意義に思われてくるものだ。

娘を持った親たちが、その娘が特定の青年と結婚してほしいと思うとき、いろいろその青年の美点をあげてすすめるのが常だが、それがQよい効果を生むとは限らない。反抗心の強い娘の場合は、むしろその青年との交際の邪魔をしたり、その青年の悪口をいったりする方が効果のある場合もあるにちがいない、と私は思う。

自分で判断した、邪魔を押しつけてやりとげた、という気持を持たないと恋愛や結婚のやりがいを感じなくなる。人間は、あるていどの邪魔がなく、困難をともなわないと、自分たちの恋愛は本物でなかった、などと考えがちなものである。(伊藤整「知恵の木の実」所収「文学と人間」より)

問一 傍線部A「書物をどういふ風に読むべきものは、なかなか決定しがたい」とあるが、なぜ「決定しがたい」と筆者は考えるのか。最も適当な説明を選べ。

- ① 既に読むべき書物が多くある上に新刊の良書も多いから
- ② 読むべき良書と避けるべき悪書の判別は困難であるから
- ③ 気質性質によつて読書の方法は人により様々であるから
- ④ 実人生に直に学ぶ方が意義のある生き方ができるから

問二 傍線部B「本当に考える人、本当に文学や思想を作り出す人にとっては、あまり多く読むことは害をする」とあるが、なぜ「あまり多く読むことは害をする」と筆者は考えるのか。最も適当な説明を選べ。

- ① 多読は乱読につながり、乱読はつまみ食いの読書という邪道に我々を引き込むから
- ② 多読を目的とする読書は落ち着いて本を読む習慣を形成する邪魔をするから
- ③ 多読は読む本の量に読書の主な価値があるという誤った考えに我々を誘い込むから
- ④ 多読は思考力・集中力を弱め、時間を浪費させ、考えをまとめる邪魔をするから

問三 傍線部Cにある志賀直哉の読書の態度は志賀直哉のどのような考えから生まれたものと推測できるか。最も適当なものを選べ。

- ① 文学は実際の生活や人生を見る目があつてこそその存在の価値があるという考え
- ② 他人の作品を読み過ぎると自分の作品のオリジナリティーが損なわれるという考え
- ③ 価値ある一冊の本を精読することが流行を追う読書よりも有意義であるという考え
- ④ 友情から作品を評価するのではなく文学的な価値から作品を評価すべきだとする考え

問四 傍線部D「知識の量の多いことだけが学者の資格ではない」とあるが、それでは「学者の資格」とは何であると著者は言っているか。最も適当なものを選べ。

- ① その時代の芸術の原型を作り出す能力があること
- ② さまざまな分野にわたるたくさんものを知っていること

- ③ ちよつとした歴史学者がかなわないような知識を持っていること
- ④ 知っていることを秩序をつけて考える力を持っていること

問五 傍線部E「推定」と同義語の関係になる熟語はどれか。最も適当なものを選べ。

- ① 推測
- ② 予測
- ③ 測定
- ④ 計測

問六 傍線部F「いろいろな現象のなかを一貫している道理」と近い意味で使われている文中のことはどれか。最も適当なものを選べ。

- ① 秩序をつけて考える力
- ② 正しい考え方
- ③ 一般的な原則
- ④ 歴史上の事実

問七 傍線部G「数歩先んじた」とはどのような意味か。最も適当なものを選べ。

- ① 先走りをした
- ② 随分革新的な
- ③ 幾分か先駆的な
- ④ 時勢に順応した

問八 傍線部H「素人の読者たちよりも、もつと本質的なことを知っている」と筆者が述べる根拠は何か。最も適当なものを選べ。

- ① 次々に出る新刊の小説類も丹念に読んでいるという自信
- ② どのように変化するかわからない作者が存在するという畏敬

- ③ ちょっとした歴史家もかなわない知識を持っているという自負
- ④ 作家の個性を理解しているので、新作の内容も推定できるという考え

問九 傍線部I「同業の専門家の間でも、三、四人の人には注意をほらう」のはなぜか。最も適切なものを選べ。

- ① 国文学者や歴史学者を凌駕する知識豊かな人たちだから
- ② 最も新しい仕事を生み出す可能性のある人たちだから
- ③ 非常に熱心に同業者の仕事を研究し追究している人たちだから
- ④ 他の作家の作品は同じ人の過去の作品と大差ないものだから

問一〇 傍線部J「その友人は、ちょっとわからないところへ隠してしまった」のはなぜか。最も適切な説明を選べ。

- ① 藤野古白がそのピストルで自殺をはかる事を恐れたから
- ② タバコの道具を磨くのに使われてはたまらないと考えたから
- ③ 親の形見であるそのピストルを非常に大事にしていたから
- ④ 自殺しそうな藤野古白にピストルを汚されるのがイヤだったから

問一一 傍線部K寺田寅彦は「なぜ大島まで行って自殺する必要があるか」という疑問を抱いたのか。最も適切な説明を選べ。

- ① 死ぬと決めた人間が旅費等の無駄な費用を使うことは合理的ではないから
- ② 自殺をすることだけが目的なら、そのためにわざわざ遠くまで行く必要はないから
- ③ 東京から大島までの旅程を考えると、その間に心変わりをするかもしれないから
- ④ 観光地として有名な大島が自殺の名所となることは、観光業にはマイナスだから

問一二 傍線部L「生きている人たちに与える効果」とあるが、どのような効果か。最も適切な説明を選べ。

- ① これまで以上に周囲の人間に自分についての関心を持たせる効果
- ② 自殺に至る心理過程を自分に関心を持つ人間に反省させる効果
- ③ 周囲の人間に自殺した自分のことで後悔の思いをさせる効果
- ④ 自殺を材料にして人に人生についての思索を深めさせる効果

問一三 傍線部M「そういう人」とはここではどういう人か。最も適切なものを選べ。

- ① 自殺をするための場所を選ぶ人
- ② 人生の意義に深刻な疑いを持つ人
- ③ 他人への思惑に動かされて自殺する人
- ④ 死と死後の世界を甘んじて受け入れる人

問一四 空欄Nに入る言葉はどれか。最も適切なものを選べ。

- ① 迷誤
- ② 選択
- ③ 妄執
- ④ 生命

問一五 空欄Oにはどのような文が入るか。最も適切なものを選べ。

- ① 私たちは、そういう障壁を乗り越えることで、これまでとは違った強い人間として成長することも多い
- ② 私たちは、そういう邪魔に苦勞するけれども、時として、邪魔がある故にかえってある事をやり抜くことも多い
- ③ 私たちは、ややもすれば安楽な生活に憧れがちであるが、そういう苦勞があつてこそ生きがいもあると思うことも多い

④ 私たちは、他人の苦労を見てあれこれと無責任な批評をするが、同じ苦労が自分に降りかかると泣き言を言うことも多い

問一六 傍線部P「本当はそういうものではないと思う」とあるが、それでは「本当は」何のためか。最も適当な説明を選べ。

- ① 山に登る途中に見える景色を見て、雄大な自然に感動をしたいため
- ② 山に登ることができない友人に登山から得た珍しい土産話をするため
- ③ 山での不自由な生活を経験して、普段の便利な生活に感謝するため
- ④ 山に登ることで危険や苦労を経験し、生命の味を深く味わいたいため

問一七 傍線部Q「よい効果」とは何か。最も適当なものを選べ。

- ① メガネにかなった青年に娘に求婚させる
- ② 娘を親の選んだ青年と結婚させる
- ③ 青年の美点を娘に認めさせる
- ④ 娘の反抗心を和らげる

三 私たちは、「ロミオとジュリエット」や「若きウエルテルの悩み」のような悲しい結末の文学作品を読んだり、映画で観たりします。どうしてこのような悲しい作品をすすんで観たり観たりするのでしょうか。二の問題文中「抵抗感」にとかれてある考え方に立って自分の考えを四〇〇字以内で論述してください。(解答は原稿用紙に記入のこと)